

小友地区 地域づくり計画書



小友自立宣言

～「守るべきもの」を守り、
今あるものを活かし、
“元気なおらほの町”をつくります～

- 人口 1,314 人、世帯数 462 世帯
- 高齢化率 42.0% (550 人)
- 一人暮らし高齢者世帯 82 世帯
- 小学校、保育園、郵便局、診療所、産直

【住民基本台帳】

平成 29 年 2 月 28 日現在

1. 地域の概況

■歴史…「往來の地」

平安時代から昭和 18 年頃まで金山の町として栄え、内外から集まって来た人たちのために開かれた商い市が、現在の小友町の発祥と言われています。また、藩政時代は盛岡藩と仙台藩の藩境に位置したため、小友町荒屋と鮎貝に御番所が設けられ、行き交う人々で賑わっていました。

現在、小友町の中心地には、小学校、保育園、郵便局、診療所、産直、デイサービスセンター等があります。平成 24 年 11 月には宮守 IC が開通したことにより国道 107 号線の交通量が増加し、住田・大船渡方面との車の往来が増えています。

■特徴…「若い力」

地域の主な産業は農業で、なかでも鷹鳥屋集落は特に若手農業者が多く従事しています。また、小友町の若者が集まり、地域の課題解決のために結成された団体もあり、様々なイベントや地域行事の手伝い、除雪の支援などに取り組んでいます。

■行事・芸能…「活発で多様」

花いっぱい運動(5月)、町民運動会(6月)、敬老会(7月)、小友まつり(8月)、地域づくり推進大会(1月)、小友町裸参り(2月)等が開催され、他にも八坂神社まつり、山谷観音まつり、鷹鳥屋まつり、長野ふれあい交流会など集落ごとの行事も活発に行われています。また、郷土芸能活動も盛んで、しし踊り 3 団体、神楽 2 団体、南部ばやし 1 団体、股旅舞踊、マドロス等 1 団体、女性手踊り 1 団体、氷口御祝保存会等、数多くの芸能があります。

2. 人口の推計

小友の町の人口は今後も減少を続け、5 年後には 65 歳以上の人口と働く世代(15～64 歳)の人口は逆転する見込みです。

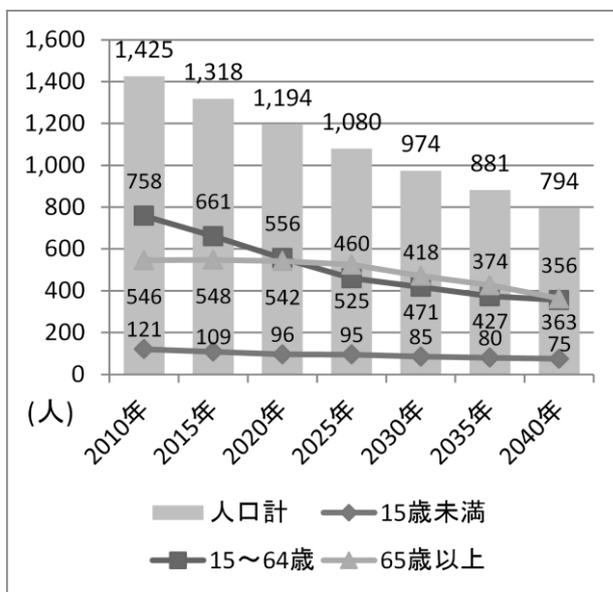


図 小友町の人口の推計

出典：遠野市人口ビジョン

3. 小友の宝・資源

計画策定の取り組みの中で、みんなで地域を実際に歩いて回り、たくさんの地域の資源やお宝を発見しました。多くの歴史資源や豊かな自然資源のほかに、平成 24 年度で閉校となった小友中学校やあずまやなど、みんなが集う大切な場所も多く上げられました。現在、旧小友中学校内には、思い出を展示した「友中歩み館～郷室(きょうしつ)～」が整備されています。

表 改善活用したいお宝

歴史	及川源次郎開拓の碑(1区)、八坂神社の馬っこつなぎ(1区)、立石の石、供養塔、守り神(2区)、金山と宿場町(2区)、巖龍神社・裸参り(2区)、山谷観音(4区)、能傳坊(3区) 鷹鳥屋神社群(5区)、西国順禮塔(5区)
自然 景観	日本で一番大きいあんずの根(1区)、ホタルの里(1区)、笹の葉や花(2区)、見晴らしの良い場所(2区) 千本カツラ(3区)、牛、ヒツジ、山菜、アケビなど山谷の食(4区)、野生動物(サワガニ、サンショウウオ、カモシカ、ホタル、クマなど)(4区)、水晶(4区)
まつり	しし踊り(4区)、鷹鳥屋まつり(5区)
生活	鮎貝小学校跡地(1区)、藤沢の滝・農村公園(3区) 農道(3区)、菊池商店(3区)、あずまや(5区)、旧小友中学校跡地(2区)
産業	高木の田園風景(2区)、産直ともちゃん(2区) たい肥センター(5区)

4. 地域の将来像

小友地区には豊かな自然に守られ、育まれてきた歴史や伝統、生活文化、農林業等産業があります。今の魅力や宝をさらに磨き、次の世代へ受け継ぐために、大人も子供も集い、学び合いながら、ひとつの家族、ひとつの会社のように活動し、元気なまちをつくっていきます。

10年後の小友地区の目指す将来像として以下を掲げます。

小友自立宣言

～「守るべきもの」を守り、今あるものを活かし、
“元気なおらほの町”をつくります～

■地域づくり事業

1. 社会教育（子ども・歴史） ▶ ▶ ▶ 小友を楽しむ

～大人も子供も集い、小友の自然や伝統を継承する～

プロジェクト（目的）	事業
1-1 ひとつづくり・教育 地域独自の教育の実践や地域産業を学ぶ場づくりを行う。	1-1-1 たげばっこ寺子屋 ～小友中学校図書館創設事業～ 小友中学校に古本や本棚を集め、子どもと大人が互いに学び合える場をつくる。 1-1-2 地域産業を学ぶ場づくり 農業体験や林業体験を行い、子供たちが地域産業を学ぶ場をつくる。
1-2 自然を守り楽しむ 豊かな自然で遊べる場づくりと遊び方の伝授を行う。	1-2-1 星空キャンプの開催 中学校のグラウンドや藤沢の滝などで、夏の新月の夜に開催する。 1-2-2 野山や川遊び環境づくり 子供たちが野山や川で遊べる環境をつくる。昔は先輩に連れて行ってもらい、遊び方を教わった。その環境を取り戻す。
1-3 歴史を受け継ぐ 歴史の伝承や集落行事の復活を行い、生きた歴史を次世代に引き継ぐ。	1-3-1 季節行事で世代間交流事業（もちつき大会） もちつき大会やみずき団子づくり、町民運動会などの集落の季節行事を復活させて、世代間交流を行う。 1-3-2 歴史マップや歴史伝承本の作成事業 歴史を調べてパンフレットやマップをつくる。看板等の整備を行う。

2. 生活・福祉・健康づくり ▶▶▶ みんなが誰かの役に立てるまち

～きょういく・きょうようあるまち～

プロジェクト（目的）	事業
2-1 お助けマン紹介所づくり 助けてもらいたい人と助けて いる人をつなぐお助けマンを配置 し、暮らしやすいまちをつくる。	2-1-1 助けてもらいたいこと・助けられること集め 地域の子供たちに協力をしてもらい、全戸にアンケート調査を行 う。 2-1-2 各行政区にお助けマン配置 助けてもらいたい人と助けてい人をつなぐお助けマンを配置する。
2-2 たまり場づくり 気軽に集まれる場をつくり、話 を楽しみながら稼げる仕組みを つくる。	2-2-1 湯治場サロンづくり J A跡地の施設を活用して、檜風呂にも入れるサロンを開催する。 2-2-2 歩いて行けるサロンづくり 各地区の、みんなが集いやすい場所にベンチなどを整備し、歩いて 行けるサロンをつくる。 2-2-3 手仕事・畑サロン 手仕事を受託したり、休耕地を活用して畑をつくりながら、みんな が気軽に訪れる場所をつくる。
2-3 生涯現役のまちづくり （でんでらのパラダイス） いくつになっても誰かの役に 立てる生きがいをつくる。	2-3-1 高齢者・障がい者生きがいづくり事業 畑づくりを高齢者と障がい者が一緒に行ったり、子供たちに遊びや 昔の知恵を教えたりすることで、だれもが役割と生きがいをもてるま ちをつくる。 2-3-2 空き家を活用した高齢者向けシェアハウス 空き家を活用して、高齢者が安心して、生きがいを持って暮らせる シェアハウスをつくる。

3. 産業・仕事 ▶▶▶ 小友町営居酒屋“おっともちゃん”開店

～「まず一杯」から始めよう～

プロジェクト（目的）	事業
3-1 町営居酒屋・カフェ 誰もが気軽に集い、小友のエ ネルギーが結集・誕生する場を つくる。	3-1-1 居酒屋づくり お店探しと並行しながら、料理コンテストなどを行いながら居酒屋 メニューを開発し、町内行事でのプレオープンを目指す。 3-1-2 小友の“みんなの料理”開発 懐かしい食の復活やばあちゃん料理を開発したり、郷土料理をイタ リアんにアレンジしたりして、小友の料理を開発する。 3-1-3 5地区の魅力づくり（特産品開発） 居酒屋メニューの開発のために、5地区の名品をつくる。
3-2 若い人の仕事づくり 若い人が小友で暮らせる環	3-3-1 農産物の徹底的な活用～集荷・流通～ ともちゃんに卸せない農産物を農家から買い取り、販売する。

境をつくる	3-3-2 薪の商品化 山を手入れし、雑木を薪にして販売し、新しい小友の商品をつくる。
-------	---

4. 観光・交流 ▶▶▶

小友ダチになろう

～小友の良いところをぎゅっと集めて、発信する～

プロジェクト（目的）	事業
4-1 情報の収集と発信 小友を知る、知ってもらう活動を行う。	4-1-1 インターネットを活用した情報発信 ユーチューブやツイッターなどを通して、小友の良いところを知ってもらい、町内の行事への参加などを呼びかける。 4-1-2 広報誌の発行 年に1回程度、町外や県外の人に向けて情報誌を発行する。
4-2 人材の発掘と仲間づくり 小友の人材と資源を発掘する。	4-2-1 小友プロデュース会（仮）の立上げ 小友をプロデュースする仲間を集め、小友の資源やその活用方法などを研究、開発する。
4-3 自然を活かす 地元も訪問者も喜ぶ観光を創出する。	4-3-1 小友丸ごと体験ツアーの開発 星空観察ツアーやホーストレッキング、畜産ツアーなど、小友地区を丸ごと体験できるツアーを開発し、運営する。
4-4 受け入れ環境の整備 定期的に人が集まる場づくりを行う。	4-4-1 まちめぐりの交通づくり レンタサイクルやサイクリングロードを整備する。 4-4-2 小友銀座の空き家活用検討 宿泊施設の整備や合宿を誘致し、外の人が気軽に立ち寄れる場づくりを行う。

5. まつり ▶▶▶

小友のまつりを参加型に！

～ずっと続けるために、町民も外の人も参加できるお祭りへ～

プロジェクト（目的）	事業
5-1 まつりの活性化 これまで引き継がれてきた町内のお祭りを外の人を受け入れながら活性化する。	5-1-1 小友まつりと裸参りの連携 小友まつりと裸参りを外の人と協力して開催する。 5-1-2 春夏秋冬祭りが開催される町にする 春祭りと秋祭りをつくり、春夏秋冬の祭りが開催される町にする。
5-2 郷土芸能（9団体）の伝承 郷土芸能に関わる人を集めて育て、次の世代に伝える。	5-2-1 小友の郷土芸能養成講座の開催 しし踊りのお囃子メンバーを集めたり、踊りの養成講座を開催し、郷土芸能を伝承する人材をつくる。 5-2-2 小友の郷土芸能の映像化 しし踊りのドキュメンタリーDVDの制作や販売を行ったり、郷土芸能を披露する機会を増やすなど、子供が大人になってから再び踊れるように下地をつくる。